教員業績一覧（2013年度）

五十嵐　泰正

【共著】

1　「文化の商品化としての国際観光」平野健一郎，古田和子，土田哲夫，川村陶子編『国際文化関係史研究』東京大学出版会，2013年４月，255～275ページ。

【雑誌論文】

1　「高度外国人材とは誰か」NPO 法人 POSSE『POSSE』20号，2013年９月，95～100ページ。

【ウェブ記事】

1　（遠藤哲夫との対談記事）「『いいモノ』食ってりゃ幸せか？　われわれはみな＜社会的＞に食べている」，『SYNODOS』，2013年４月，http : //synodos.jp/society/3222

2　（開沼博との対談記事）「どうしてぼくたちはすれ違うのか　――　社会学者が語る，震災後の断絶の乗り越え方」『SYNODOS』，2013年４月，http : //synodos.jp/fukkou/3629

3　「柏市の事例報告および地域協働・地域ブランディングの可能性について」『SYNODOS JOURNAL』, 2013年９月, http : //synodos.livedoor.biz /archives/2010874.html

4　（パネルディスカッション抄録）「『安全・安心』を超える〈価値〉とはなにか――危機を転機に変えるために」『SYNODOS』，2013年11月，http : //synodos.jp/fukkou/6202

【事典項目執筆】

1　「ニューカマーとオールドカマーのせめぎあい」吉原和男ほか編『人の移動事典』丸善出版，2013年11月，304～305ページ。

【インタビュー，鼎談など】

1　「独自基準決め地産地消」『東京新聞全国版』，2013年６月17日。

2　「年末年始に読みたい１冊　識者のおすすめ「今年読んだベスト３本」」『WEDGE Infinity』，2013年12月，http : //wedge.ismedia.jp/articles/–/3470

3　（坂倉昇平，今野晴貴との鼎談）「「おもてなし」が社会をブラック化する」『ブラック企業 vs モンスター消費者』ポプラ新書，2014年２月，121～173ページ。

【学会口頭報告，講演など】

1　「柏でできたこと，できなかったこと」『復興アリーナ・シンポジウム　「安

全・安心」を超える＜価値＞とはなにか ── 危機を転機に変えるために』，福島グリーンパレス，2013年３月31日。

2 「柏の「みんな」で決めたこと　ホットスポットのなかの民主主義」『知のコスモス講演会』，東海大学，2013年５月23日。

3 「柏の「みんな」で決めたこと」『福島土壌クラブ勉強会』，ＪＡ新ふくしま，2013年５月26日。

4 「「分断を越える協働」はいかにして可能なのか―「安全・安心の柏産柏消」円卓会議の経験から」『関東社会学会第61回大会テーマ部会Ａ』，一橋大学，2013年６月16日。

5 「「ディアスポラ」概念の現代日本における実践的な再定位のために」『日本移民学会第23回年次大会大会シンポジウム』，武蔵大学，2013年６月29日。

6 「みんなで決めた「安心」のかたち―ポスト３.11の「地産地消」を考える―」『図書館のつどい』，国立市公民館，2013年７月６日。

7 「「社会的分断を前にした協働とマーケティング ── 柏でできたこと，できなかったこと」『第35回 FoRAM 勉強会』，東京大学，2013年８月５日。

8 「社会的分断を前にした協働とマーケティング ── 柏の円卓会議の経験から」『第２回 FAIRDO 車座会議』，福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ，2013年９月27日。

9 （パネルディスカッション参加）『柏まちなかカレッジ　ＣＳＡ ── 農×コミュニティのこれから』，わがやのやおやさん風の色農場，2013年10月３日。

10 「ポスト３．11の新しい地産地消を目指して」『ポスト３.11の新しい地産地消を目指して～放射能汚染への対応～』，宮城県大崎合同庁舎，2013年10月24日。

11 （小松理虔との対談）『復興と遊ぶ／復興で遊ぶ ── いわきと日本の未来を考える』，下北沢Ｂ＆Ｂ，2013年11月21日。

12 「第３部へのコメント」『公開合評会　人口移動研究の新たな展開をめざして ── 蘭信三編『帝国以後の人の移動』──』，東京大学，2013年12月７日。

13 「「風評」被害から信頼の構築へ」『かしわインフォメーションセンター新年会』，真砂屋，2014年２月４日。

14 「マスメディア内部から見えにくい社会」『放送構学　第２回研究会』，日本放送労働組合，2014年２月17日。

15 「みんなで決めた「安心」のかたち」『つくば市民大学　学園祭』，つくば市民大学，2014年３月29日。

【メディア出演】

1 「“ホットスポットの町”の取り組み」『ニュースの深層』テレ朝 ch２，2013年10月22日。

土井　隆義

【論文】

1　「つながり過剰症候群(1)－社会の流動性の高まり－」『児童心理』第67巻（第8号），117～123頁，2013年6月

2　「つながり過剰症候群(2)－自己承認欲求の肥大化－」『児童心理』第67巻（第10号），119～125頁，2013年7月

3　「変容する仲間集団の光と影－いじめ問題を正しく理解するために－」『こころの科学』第170号，23～27頁，2013年7月

4　「つながり過剰症候群(3)－キャラ化する人間関係－」『児童心理』第67巻（第11号），119～125頁，2013年8月

5　「つながり過剰症候群(4)－新しいつながりの形へ－」『児童心理』第67巻（第13号），119～125頁，2013年9月

6　「後期近代の黎明期における少年犯罪の減少－社会緊張理論と文化学習理論の視点から－」『犯罪社会学研究』38号，78～96頁，2013年10月

7　「ＡＫＢ48の躁，初音ミクの鬱－コミュ力至上主義の光と影－」『社会学ジャーナル』第39号，筑波大学社会学研究室，2014年3月

【書評】

1　河合隼雄『大人になることのむずかしさ』岩波現代文庫（2014）解説，2014年2月

2　山下美紀『子どもの「生きづらさ」－子ども主体の生活システム論的アプローチ』学文社(2012)書評論文，『ソシオロジ』第58巻第3号(社会学研究会)，97～103頁，2014年3月

【事典解説】

1　「非行」，藤永保　監修『最新心理学事典』平凡社，2013年12月

【報告書】

1　「今日の友だち関係の光と影－若者の親密性の変容を考える－」筑波大学附属駒場中・高等学校編『第6回筑駒アカデメイア報告書』15～24頁，2013年5月

【口頭発表】

1　「学校現場における人間関係の分断化といじめ問題」日本社会病理学会　第29回大会シンポジウム「社会的分断化のメカニズムを問うⅢ」2013年9月29日，國學院大学

2　「いじめ問題の現状と課題－かけがえのない自分を育むために－」日本学校心理学会　第40回研修会講演，2013年11月4日，筑波大学東京キャンパス

3 「後期近代の揺らぎと関係リスク－「脱埋め込み」から「再埋め込み」へ－」京都大学こころの未来研究センター「大人の発達障害プロジェクト研究会」2013年12月25日，京都大学こころの未来研究センター

【その他】

1 「“一人でいられない”子どもたちの不安」『保健室』第165号，３～９頁，2013年４月１日
2 「いじめ問題と孤立不安」『学校教育相談』第27巻第５号，48～51頁，2013年４月１日
3 「反抗期を喪失した子どもたち①－フラット化する親子関係－」『月刊福祉』第96巻第６号，92～93頁，2013年５月１日
4 「いじめ問題と道徳教育」『学校教育相談』第27巻第６号，48～51頁，2013年５月１日
5 「教室の死角－中学いじめ事件－」『佐賀新聞』，事件・社会面（22面），2013年５月５日
6 「体罰に効果はあるか－主体性を育てるには有害－」『北海道新聞』，９面，2013年５月31日
7 「反抗期を喪失した子どもたち②－リスクとしての親子関係－」『月刊福祉』第96巻第７号，88～89頁，2013年６月１日
8 「体罰に教育的効果は期待できるか？」『学校教育相談』第27巻第７号，48～51頁，2013年６月１日
9 「いじめ匿名通報サイト－現場への反映が大事－」『西日本新聞』夕刊，１面，2013年６月10日
10 「子どもたちを集団圧力から解放しよう」『これからどうする～未来のつくり方～』岩浪書店，492～495頁，2013年６月12日
11 「友だち地獄「空気を読む」世代のサバイバル」ウェブサイト『WISDOM』未来授業～明日の日本人たちへ，ＮＥＣ，2013年６月28日
12 「識者評論：いじめ防止対策推進法成立－裾野広く対処は限定的－」『神奈川新聞』『中国新聞』『長崎新聞』『高知新聞』『岩手日報』他（共同通信による配信）2013年６月28日～７月４日
13 「反抗期を喪失した子どもたち③－本音を語れない親子関係－」『月刊福祉』第96巻第８号，86～87頁，2013年７月１日
14 「多様化した世界を生き抜くために」『学校教育相談』第27巻第８号，48～51頁，2013年７月１日
15 「呉少女遺棄事件の背景－「優しい」関係こそ重圧か－」『中国新聞』，オピニオン面（６面），2013年７月27日
16 「反抗期を喪失した子どもたち④－共依存としての親子関係－」『月刊福祉』第96巻第９号，90～91頁，2013年８月１日

17 「狭くなりがちな思春期の人間関係」『灯台』第635号，18～19頁，2013年８月１日
18 「ＡＫＢ総選挙に見る今日の人間関係」『学校教育相談』第27巻第10号，48～51頁，2013年８月１日
19 「自分が自分であるために－ネット上のキャラ化を乗りこえて－」日本子どもを守る会編『子ども白書2013』本の泉社，208～209頁，2013年８月17日
20 「広島少女遺棄事件から見えるもの－ネットで深めた仲間意識が牙－」『北海道新聞』，９面，2013年８月30日
21 「反抗期を喪失した子どもたち⑤－広がるママ友地獄の背景－」『月刊福祉』第96巻第10号，86～87頁，2013年９月１日
22 「いじめ問題はどこまで法で解決できるか」『学校教育相談』第27巻第11号，48～51頁，2013年９月１日
23 「反抗期を喪失した子どもたち⑥－伝統的な共同体への憧憬－」『月刊福祉』第96巻第11号，86～87頁，2013年10月１日
24 「広島県呉市少女遺棄事件が示唆するもの」『学校教育相談』第27巻第12号，48～51頁，2013年10月１日
25 「犯罪率の低下は日本社会の何を物語るのか？」『犯罪社会学研究』38号，４～６頁，2013年10月
26 「キャラ化された人間関係の光と影」『学校教育相談』第27巻第13号，48～51頁，2013年11月１日
27 「子どものネット依存㊤－つながり依存としてのネット依存－」『週刊教育資料』第1273号，24～25頁，2013年11月４日
28 「子どものネット依存㊦－ネットが進める人間関係の親密化－」『週刊教育資料』第1274号，18～19頁，2013年11月11日
29 「中高生のネット依存－つながり増やす対策を－」『北海道新聞』，９面，2013年11月22日
30 「カーストはあるだけまだましだ」『授業力＆学級統率力』第51巻第12号，７頁，2013年12月１日
31 「ネット・コミュニケーションの光と影」『学校教育相談』第27巻第14号，48～51頁，2013年12月１日
32 「ネット依存の根にあるもの」『子どもとメディア』第25号，２頁，2013年12月
33 「友だち親子の落とし穴」『学校教育相談』第28巻第１号，48～51頁，2014年１月１日
34 「ＡＫＢ48の人気が物語るもの（上）－フラット化する人間関係－」『日本教育』第430号，26～27頁，2014年１月１日
35 「ボーカロイドの小宇宙」『学校教育相談』第28巻第３号，48～51頁，2014年２月１日

36 「人はなぜ「キャラ」をつくる？」『チャレンジ６年生未来！発見ＢＯＯＫ』４～10頁，2014年２月１日
37 「ＡＫＢ48の人気が物語るもの（中）－コミュニケーション力の専制－」『日本教育』第431号，26～27頁，2014年２月１日
38 「裁判員制度に初の検証作業」『北海道新聞』，９面，2014年２月21日
39 「生きづらさとは何なのか？」『学校教育相談』第28巻第４号，48～51頁，2014年３月１日
40 「ＡＫＢ48の人気が物語るもの（下）－肥大する自己承認願望－」『日本教育』第432号，26～27頁，2014年３月１日
41 「LINE を駆使する今日の若者たち－人間関係をめぐる問題点のありか－」明治図書 WEB サイト『教育 zine』，教育オピニオンコーナー，2014年３月１日
42 「ネット世代の人間関係とコミュニケーション」『更生保護』第65巻第３号，日本更生保護協会，2014年３月15日

野上　元

【著書】

1 （福間良明・蘭信三・石原俊との共編著）『戦争社会学の構想』（勉誠出版）（「はじめに」（共同執筆），第２章（高橋三郎論文）「解説」，第８章「消費社会の記述と冷戦の修辞」）

【書評，その他】

1 （書評）「山本昭宏著『核エネルギー言説の戦後史1945－1960：「被爆の記憶」と「原子力の夢」』」（『ソシオロジ』178号（58巻１号））
2 （書評）「島村恭則編『引揚者の戦後』（新曜社）」（『図書新聞』3141号（2014年１月11日号））
3 （座談会）野上　元・山本唯人・スヴェン・サーラ・柳原伸洋「研究者座談会　戦争記憶の現在，これから」（『望星』2013年９月号）
4 （鼎談）「「殺す／殺される」前に ── 鼎談　福間良明・野上元・石原俊『戦争社会学の構想』（勉誠出版）をめぐって」（『図書新聞』2013年９月７日号（3125号））
5 （ウェブ連載）「近現代史の社会学 ── 歴史を「体感」するためのレッスン」（光文社新書メールマガジン）vol. 44－49

【報告・講演】

1 （報告）「新自由主義時代の観光まちづくり－愛媛県松山市「『坂の上の雲』まちづくり」にみる「選択と集中（と分散）」（第50回文化社会学研究会，早稲田大学戸山キャンパス，11月16日）

2　（講演）「社会学の研究対象としての『戦争』── その多様なアプローチ」（日本大学社会学会特別講演，日本大学，11月27日）
3　（コメント）「書評セッション・神子島健『戦場へ征く，戦場から還る ── 火野葦平，石川達三，榊山潤の描いた兵士たち』新曜社，2012年」（叙述態研究会（きむすぼ）第72回，国立オリンピック記念青少年総合センター，７月５日）
4　（コメント）「戦跡と観光の社会学」（戦争社会学研究会関西例会，関西大学，10月19日）

黄　順姫

【原著論文】

1．「社会的・文化的体罰の日本・韓国の比較」『体育の科学』，日本体育学会編，Vol.63，2013年，797－806頁。
2．「戦後化粧の文化史からみる若い女性の『化粧顔』」，『研修紀要』165号，日本理容美容研究センター，2013年，９－13頁。
3．「現代若い女性の化粧顔とインターネット ── 2000年代から2010年代前半 ── 」，『研修紀要』166号，日本理容美容研究センター，2014年，10－14頁。

【報告書・その他】

1．黄順姫編『現代日本の学校教育の表象と問題』，韓国高麗大学校との研究発表会報告書，筑波大学人文社会系文化社会学研究室，2013年，１－144頁。

【国内外学会発表・研究活動】

1．「メガスポーツイベントが韓国・日本社会に及ぼした影響 ── ワールドカップ・サッカーを事例に」，筑波大学人文社会研究科，日韓社会文化フォーラム，高麗大学校日本研究センター（韓国と日本の社会・文化比較セミナー』）高麗大学校日本研究センター（韓国），2013年５月28日。
2．「日本女性の化粧文化と働く女性のリーダーシップ」，『リーダーシップ講座』同徳女子大学校（韓国），2013年５月28日。
3．「働く女性リーダーの役割と喜び」『女性リーダー研修会』，月島食品グループ東京フード株式会社，2013年４月18日。
4．（オーガナイザー）「日本と韓国の学校教育の表象と問題」高麗大学校師範大学大学院及び筑波大学教育研究科・人文社会科学研究科の研究発表会，2013年５月28日，高麗大学校（韓国）。
5．（オーガナイザー）「韓国と日本の社会・文化比較セミナー」筑波大学人文社会研究科，日韓社会文化フォーラム，高麗大学校日本研究センター，2013年５月28日，高麗大学校日本研究センター（韓国）
6．（オーガナイザー）「日本の学校制服の文化と若者文化の歴史」同徳女子大学校日本語学科及び筑波大学教育研究科・人文社会科学研究科の研究発表

会，2013年５月28日，同徳女子大学校（韓国）。
7．（オーガナイザー）「グローバル共存・共生　講座シリーズ，第１回講演会」，明石純一，「移民研究からみられる共生の課題」，2013年11月７日，筑波大学総合研究Ａ棟111号室。
8．（オーガナイザー）「地元と世界に発信するクールジャパン」第11回アカデミック・プレゼンテーションコンテスト，筑波大学全学メンター会・文化社会学研究室，2013年11月23日，筑波大学１Ｄ201号室。

森　直人

【論文】
1　「教育の歴史社会学 ── 1995年以降の展開と課題」（井上義和と共著）『教育社会学研究』第93集，193～224頁，2013年11月。
2　「戦前東京市養育院における児童の分類処遇と授産・感化・職業教育」三時眞貴子編『教育「支援」とその「排除性」に関する比較史研究』（平成23－25年度科学研究費補助金・基盤研究（Ｃ））成果報告書，2014年３月予定。

【口頭発表】
1　「比較教育社会史の現在 ──『福祉国家と教育』を中心として」第２回教育の歴史社会学コロキウム，2014年２月22日，於：電気通信大学。
2　「団地居住者生活実態調査（1965年）の概要と分析の課題について」2013年度二次分析研究会・課題公募型研究「戦後日本社会における都市化のなかの世帯形成と階層構造の変容」成果報告会，2014年３月26日，於：東京大学。

穐山　新

【論文】
1　「中国近代思想における『専制』『自由』『自治』──「ばらばらの砂」の近代」『社会学ジャーナル』第39号，筑波大学社会学研究室，2014年３月

大学院生（国際公共政策専攻，社会科学専攻）業績一覧（2013年度）

●赤羽由起夫

【論文】

・「なぜ『心の闇』は語られたのか ── 少年犯罪報道に見る『心』の理解のアノミー」『社会学評論』64(1)：37－54.

【報告書】

・「犯罪報道における少年犯罪の語られ方に関する社会学的研究──1990年代から2000年代を中心として」公益財団法人日工組社会安全財団2012年度若手研究助成最終報告書。

【事典項目】

・「社会解体」『日本大百科全書（ニッポニカ）』小学館。

●大嶋尚史

【学会報告】

・「安全教育の変容 ──「見知らぬ他者」との隔離／交流の断絶」（2013年９月21日，日本教育社会学第65回大会，一般報告，埼玉大学）

●岡村逸郎

【論文】

・「『通り魔的』の誕生と犯罪被害者問題―犯罪被害者補償に関する新聞報道のカテゴリー化実践に注目して」『犯罪社会学研究』38：110－123.

【学会報告】

・「『無垢な犯罪被害者』という制度 ── 通り魔・爆破テロ記事に見る『被害者』カテゴリーの変容とその言説史」(2013年６月15日，関東社会学会第61回大会，修士論文フォーラム，一橋大学国立キャンパス）

・「犯罪被害リスクの社会化と被害者学 ── 犯罪被害者等給付金支給制度を対象に」（2013年10月６日，日本犯罪社会学会第40回大会，自由報告Ｅ第２報告，北海学園大学豊平キャンパス）

●川村智樹

【学会報告】

・「暴力の被害者がＤＶ被害者として表象されるとき」（2013年６月16日，関東社会学会第61回大会，一橋大学国立キャンパス）

●楠田恵美

【編著】

・「玉川髙島屋ＳＣという起源 ── 巨大商業施設の前史とその誕生」若林幹夫編『モール化する都市と社会 ── 巨大商業施設論』ＮＴＴ出版，2013年，33－60頁

【論文】

・「歓迎する都市 ── 観覧車の登場と再登場 ──」『社会学ジャーナル』第39号，筑波大学社会学研究室，2014年３月

●栗山靖弘

【学会報告】

・「スポーツ推薦による大学進学の決定メカニズムに関する研究 ── 強豪校野球部員の進学についての事例を通して」（2013年９月22日，日本教育社会学第65回大会，一般報告，埼玉大学）

●高口僚太朗

【学会報告】

・「慢性の病いを生きる ──〈普通〉をめぐって構成されるライフストーリー」(2013年６月16日，関東社会学会第61回大会，一橋大学国立キャンパス）

●後藤美緒

【報告書】

・「漫才台本における〈上方文化〉表象の歴史社会学的研究 ── 漫才台本たちの営みに注目して」, 財団法人日本科学協会, 笹川科学研究助成研究報告書, pp. 1－15

●宮地弘子

【論文】

・「現代のソフトウェア開発現場における労働問題の背景 ── ライフストーリーの現象学的分析から描出する固有の常識的知識」『理論と動態』Vol. 6，pp. 37－55

【書籍（共著）】

・「若者と仕事の意味」『グローカル時代の社会学 ── 社会学の視点で読み解く現代社会の様相』pp. 83－107